

火薬庫 学研都市真ん中に

防衛省は弾薬の種類明かさず 不安の声



関西文化学術研究都市

京都、大阪、奈良3府県8市町の丘陵地約1万5千畝が区域で、150以上の官民の研究施設や7大学が立地する。開発された住宅地も多く、城内人口は25万人超で増加している。関西文化学術研究都市建設促進法（1987年施行）に基づく国家プロジェクト。

安全保障問題に詳しいジャーナリストの布施祐仁さんは、祝園分屯地の規模に注目する。面積466畝で東京ドーム約100個分。「広さに加えて、周囲が山で囲まれ、市民には中が全く見えない点も軍事施設として価値が高い」と話す。

台湾有事の際は、本州各地の部隊や武器・弾薬が南西諸島に送られる。そのため陸自を中心とした海上輸送部隊が4月に発足した。海上自衛隊の呉基地（広島県呉市）と阪神基地（神戸市東灘区）が拠点となる。「祝園から阪神基地までは高速道路を使えば車で約1時間。ア

「トマホーク 貯蔵の可能性」

安保問題に詳しい専門家は

ケセスのよさも利点となる」と言う。

また、敵基地攻撃に使う射程1600キロ以上とされる米国製巡航ミサイル「トマホーク」は、海上自衛隊のイージス艦に搭載される計画だ。祝園は今後、海自との協同運用となる。京都府舞鶴市にはイージス艦の基地があり、「舞鶴に近い祝園に貯蔵される可能性は高い」と分析する。

市民生活にはどのような影響が考えられるのか。「平時における爆発事故のリスクが増大する。有事には攻撃目標となる可能性が高い」と指摘する。

22日夜、京田辺市の住民を対象にした工事説明会があり、約90人が参加した。「自分の家の裏庭に何が保管されるかわからず、白紙委任はできない」「ミサイルなら破壊力が強く、万一の時、影響も大きい」。弾薬の種類に質問は集中したが、防衛省側は「能力保証」の姿勢に終始した。精華町でも24、26日に開かれた。

周囲には多くの住宅地や官民の研究機関が立ち並ぶ。周辺住民は昨年3月、「京都・祝園ミサイル弾薬庫問題を考える住民ネットワーク」を設立。保管される弾薬などの説明を求め、1万人以上の署名を防衛省に提出した。

同省の説明を聞いた同ネットワーク共同代表の呉羽真弓さんは「やはり長射程ミサイルが保管されるのではという不安が強まった」と話す。（平岡和幸）

京都 全国最大規模

関西文化学術研究都市のほぼ中央にある陸上自衛隊祝園分屯地（京都府精華町、京田辺市）で、防衛省は8月にも火薬庫の増設工事を始める。政府が2022年末に策定した「防衛力整備計画」に基づき、全国最大規模の計14棟を造る。保管する弾薬の種類は不明で、住民から不安の声が上がる。

火薬庫新設が決定している場所と棟数 2025年7月現在

だ。中国の海洋進出など一西諸島にミサイル部隊を念頭に、台湾に近い南一配備された。



説明の場で、議員から防衛省側に「敵基地攻撃に使う長射程ミサイルが保管されるのか」「（不慮の爆発から保護するための）保安距離は何か」などと質問が相次いだ。

防衛省側は「弾薬の種類や保安距離は、詳細を示すことで自衛隊の能力が明らかにする恐れがあり差し控えます」「火薬類取締法など関係法令に基づき十分な距離を確保

します」などと説明した。

22日夜、京田辺市の住民を対象にした工事説明会があり、約90人が参加した。「自分の家の裏庭に何が保管されるかわからず、白紙委任はできない」「ミサイルなら破壊力が強く、万一の時、影響も大きい」。弾薬の種類に質問は集中したが、防衛省側は「能力保証」の姿勢に終始した。精華町でも24、26日に開かれた。

掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.